



学校健診PHR 導入事例集

文部科学省
2026.04

目次

I. はじめに	02
1 学校健診PHRとは	02
2 本事例集作成の背景と目的	04
3 本事例集の活用方法	05
II. 学校健診PHRの概要	06
1 学校健診PHRの全体像	06
2 学校健診PHR導入に向けた課題とポイント	07
3 導入事例一覧	10
III. 学校健診PHRの導入事例	11
A 高等学校(私立)	11
B 幼稚園(国立)	15
C 小学校(公立)	19
D 大学(国立) ※アドバンス事例	22
IV. 参考資料(活用できる資料例の掲載)	25

1. はじめに

1 学校健診PHRとは

① 学校における健康診断(学校健診)について

- 学校における健康診断は、学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資することを目的とし、子供の健康の保持増進を図るために実施するものです。
学校生活を送るに当たり支障があるかどうかについて疾病をスクリーニングし、健康状態を把握するという役割と、学校における健康課題を明らかにして健康教育に役立てるという、大きく2つの役割があります。
- 学校では、毎年4～6月の時期に年1回健康診断が行われ、その結果は21日以内に本人や保護者に通知されます。その際に疾病又は異常の疑いが認められる場合、学校は、医療機関への受診指示など適切な事後措置をとらなければなりません。

② 学校健診結果を含む自身の保健医療情報閲覧・活用における課題

- 現状では、学校健診結果を含む自身の健診結果情報等にワンストップでアクセスし、閲覧・活用するのは困難な状況です。また、健診結果情報が電子化されておらず、円滑な確認が困難であることや災害時等における紛失リスクが存在します。

③ 自身の保健医療情報を閲覧・活用できる仕組み

- 現在政府では、個人の健康診断結果や服薬履歴等の健康診断情報を、電子記録として、本人や家族が正確に把握するための仕組み(PHR(Personal Health Record / パーソナル・ヘルス・レコード))の構築を、「データヘルス改革に関する工程表」等に基づき進めています。このことにより、国民は、学校健診結果を含む自身の保健医療情報を、マイナポータル等を通じてPCやスマートフォン等で閲覧・活用したり、API連携*等を通じて、個人のニーズに応じた幅広い民間PHRサービスを活用したりすることが可能になります。

※：API(Application Programming Interface / アプリケーションプログラミングインターフェイス)連携とは、コンピュータ同士で自動的にデータをやりとりする仕組みのことです。

1. はじめに

1 学校健診PHRとは ー導入のメリット

① 統合型校務支援システム等に入力したデータを直接送付可能です

健康ノートなどへ手書きや、統合型校務支援システム等からの印刷は不要です。

② 児童生徒等は健康情報を生涯にわたって自身で管理ができます

乳幼児健診結果、予防接種履歴、薬の処方・調剤情報、特定健診結果など、様々な健診関連情報を生涯にわたって記録・活用できるようになります。

③ 健康教育への活用が期待されます

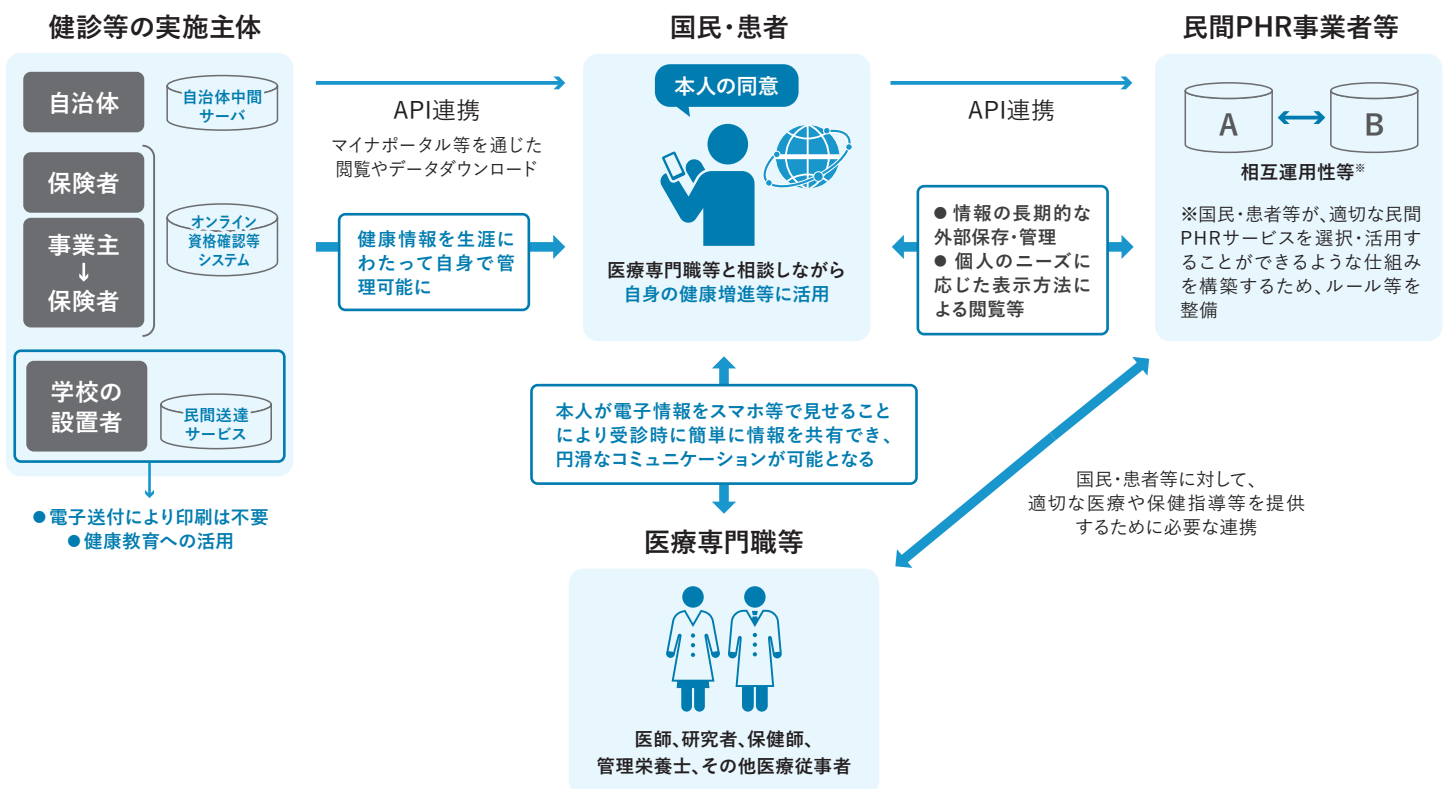
全ての児童生徒等の健康状態を集計・分析し、グラフ等で分かりやすく表現することが容易になり、健康教育に効果的に活用できます。

④ 医療従事者等と相談しながら、自身の健康増進等に活用できます

学校健診結果情報をスマートフォンで管理することで、児童生徒等や保護者は、医療従事者などに簡単に提示するなど、医療機関における円滑なコミュニケーションに役立てることができます。

⑤ 家庭では子供の成長記録を家族と共有できます

日常使っているパソコンやタブレットに転送して管理できるため、失くしにくく、検索しやすくなります。



1. はじめに

2 本事例集作成の背景と目的

① 背景

- 文部科学省では、「デジタル社会の実現に向けた重点計画」(令和5年6月16日閣議決定)など政府全体のデジタル化の方針や、「教育データ利活用に関するロードマップ」(令和4年1月7日)で示された教育データ利活用の方針との整合性を図りつつ、児童生徒等の学校健診結果をマイナポータルを通じて電子的に提供する学校健康診断情報のPHRへの活用(学校健診PHR)について、その仕組みの検討や実証等を行ってきました。
- これまでに、学校健診PHR導入マニュアルの作成・学校設置者向けの伴走型支援等を実施し、希望する学校設置者が順次導入を進められる環境を整備しています。

② 目的

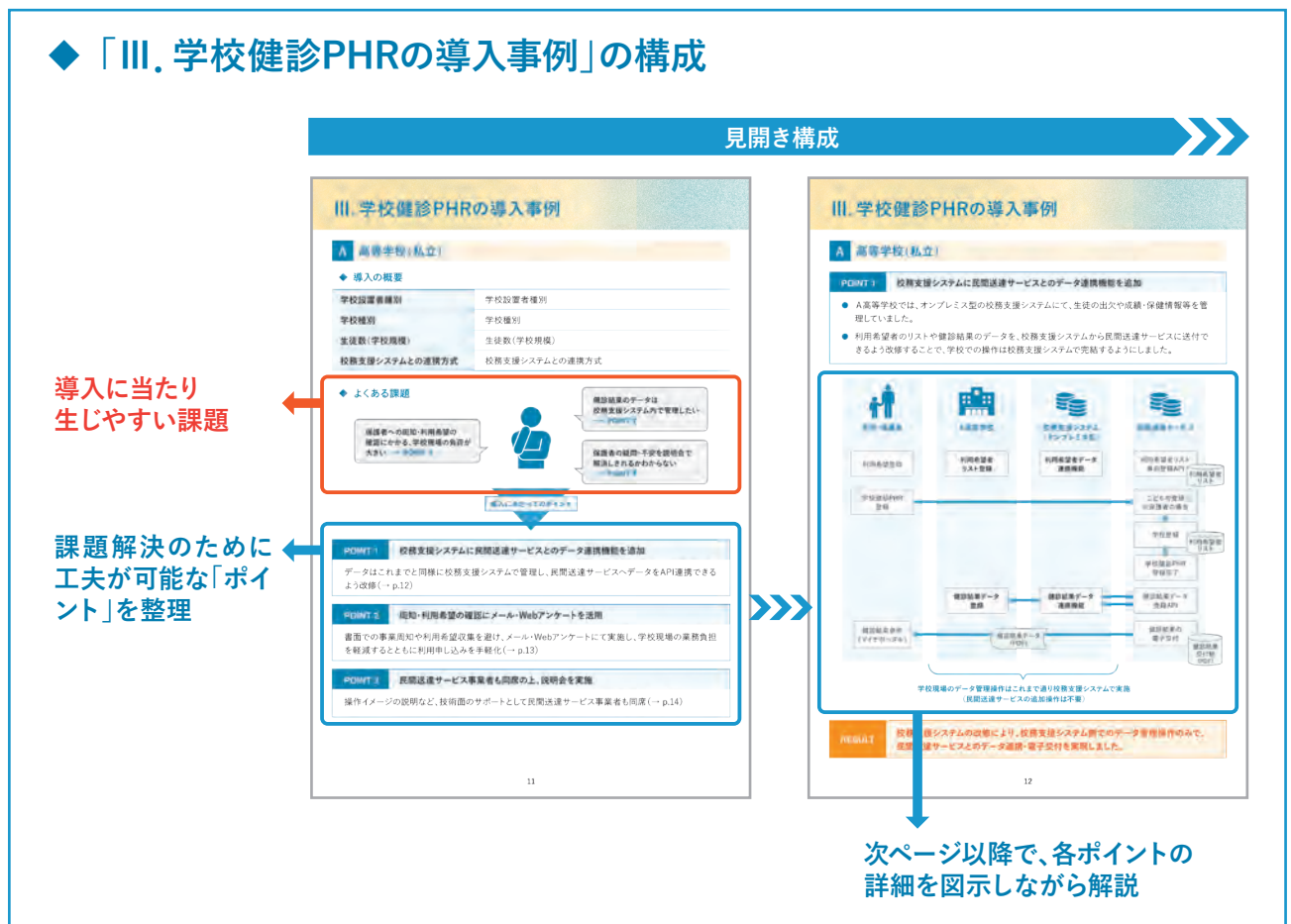
- 学校健診PHR導入に向けた検討を進める学校設置者が増加している中で、導入を進める際には、保護者向けの周知・理解獲得、健診結果データの管理方法、健診結果に限らない交付書類全体のデジタル化等が課題となっています。
- このことから、学校健診PHRのさらなる普及に向けて、保護者が利用を開始しやすいようにするための工夫や、統合型校務支援システムと民間送達サービスの連携、証明書発行の仕組み等、実際に導入を行った学校設置者の具体的なノウハウを体系的に取りまとめた本事例集を作成いたしました。
- 本事例集が、学校健診PHRの導入を検討されている学校設置者の皆様の課題解決の一助となり、学校健診PHRの円滑な導入に寄与できれば幸いです。

I. はじめに

3 本事例集の活用方法

- 本事例集は「II. 学校健診PHRの概要」、「III. 学校健診PHRの導入事例」、「IV. 参考資料(活用できる資料例の掲載)」の大きく3つのパートで構成されています。
- 「II. 学校健診PHRの概要」では、学校健診PHRの全体像を整理しています。さらに、学校設置者が導入に当たり直面しやすい課題と、その課題を解決するために工夫が可能なポイントをまとめています。
- 「III. 学校健診PHRの導入事例」では、実際に学校健診PHRを導入した4つの学校設置者を取り上げ、課題と解決に向けたポイントについての具体的な事例・ノウハウを、図示とともに紹介しています。

◆ 「III. 学校健診PHRの導入事例」の構成

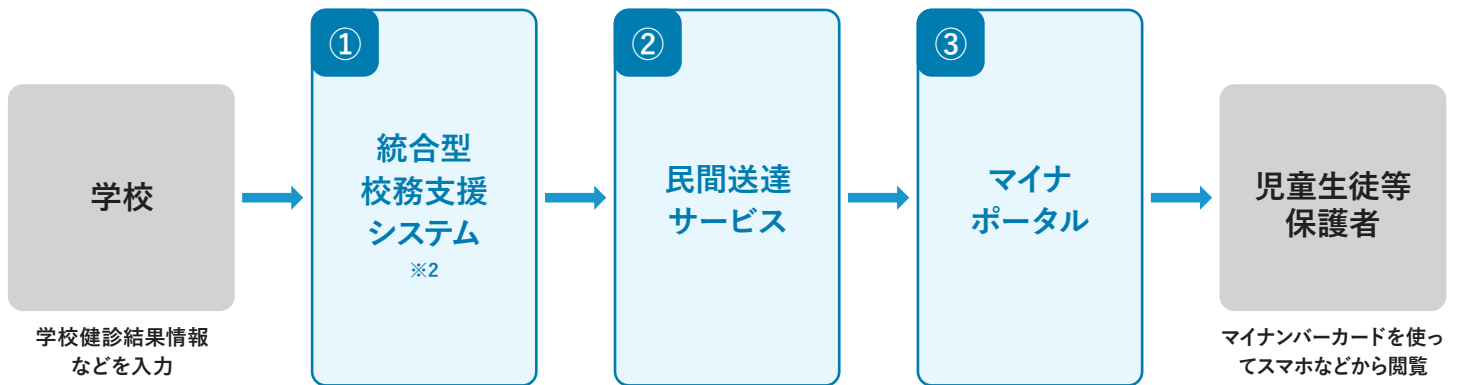


- 「IV. 参考資料(活用できる資料例の掲載)」では、学校設置者が導入に当たって活用できる資料として、保護者への説明資料の例や、保護者に配布可能なリーフレットを掲載しています。

II. 学校健診PHRの概要

1 学校健診PHRの全体像

- 学校健診PHRでは、統合型校務支援システムに入力した学校健診結果情報を、民間送達サービスを使って児童生徒等や保護者に送り、マイナポータルから閲覧します（下図参照）。学校健診PHR導入の進め方詳細は、文部科学省ウェブサイト^{※1}に掲載されている学校健診PHR導入マニュアルをご確認ください。



① 統合型校務支援システム

出欠や成績などの教務系、指導要録などの学籍系、学校事務系、学校健診結果情報などの保健系の情報を扱うシステム。

② 民間送達サービス

インターネット上に自分専用の電子ポストを作り、自分宛ての情報を受け取るサービス。

③ マイナポータル

デジタル庁が提供する国民向けサービス。マイナンバーカードの公的個人認証サービスを利用し、国民が自身の情報を安全に入手・閲覧できる。

※1：文部科学省「学校健診PHR導入マニュアル」

https://www.mext.go.jp/content/20240327-mxt_kenshoku-000019517_6.pdf

※2：統合型校務支援システムを利用しないケースもあります。

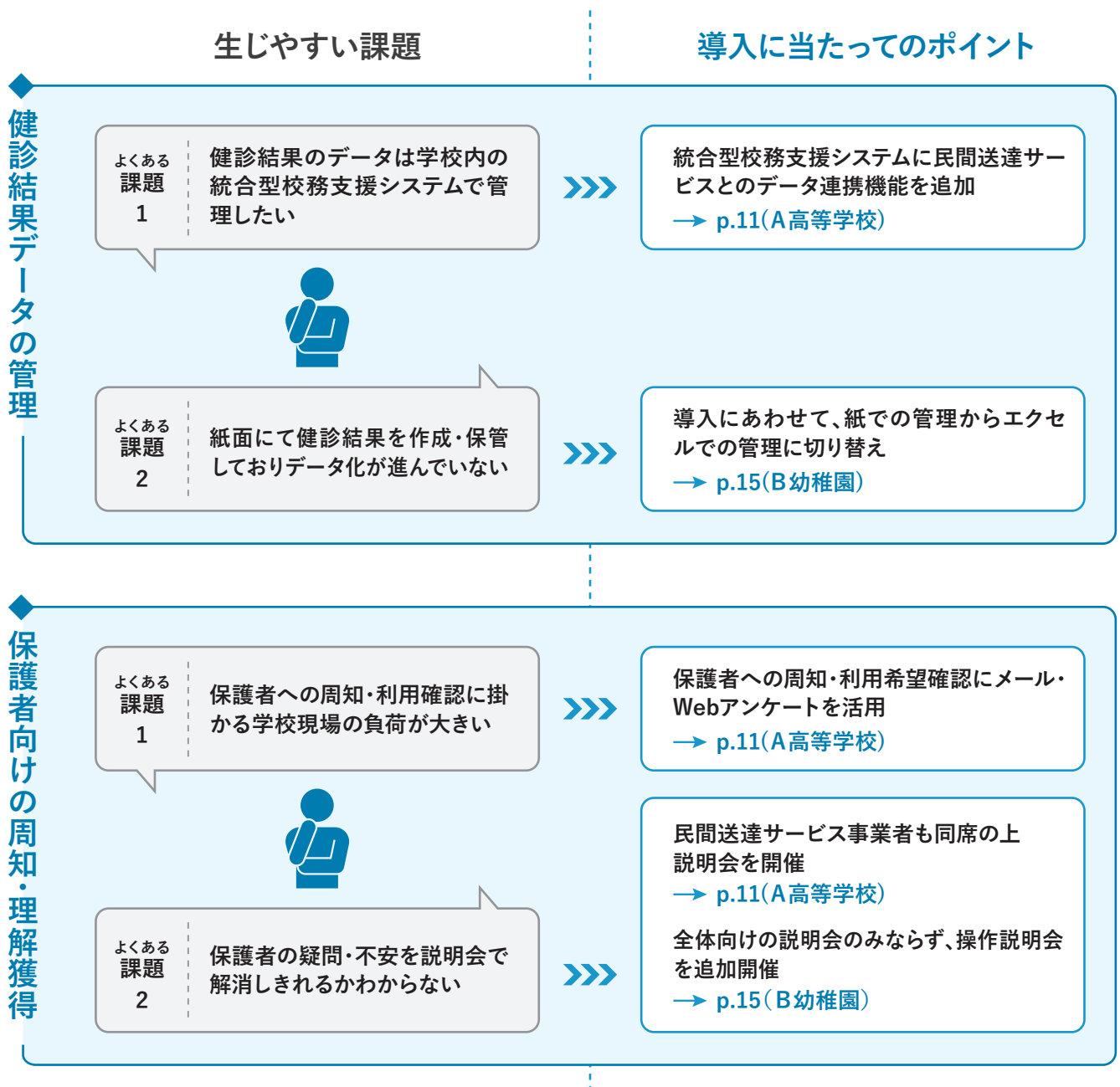
学校健診PHR導入
マニュアル^{※1}



II. 学校健診PHRの概要

2 学校健診PHR導入に向けた課題とポイント

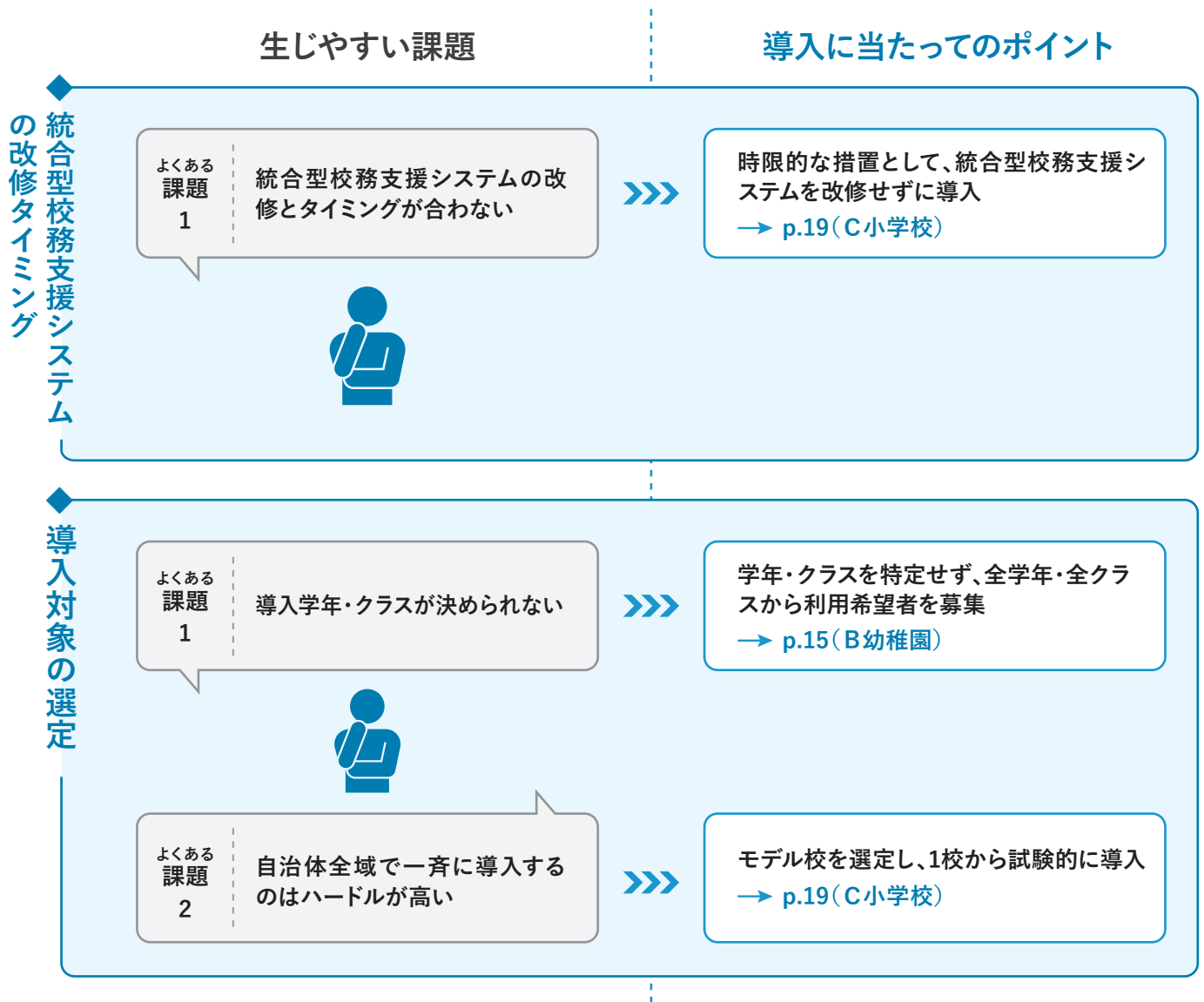
- 学校設置者が実際に直面しやすい課題と、その課題を解決するために工夫が可能なポイントをまとめました。実際の導入事例における課題と導入に当たってのポイントは、「III. 学校健診PHRの導入事例」にて詳細に掲載しています。



II. 学校健診PHRの概要

2 学校健診PHR導入に向けた課題とポイント

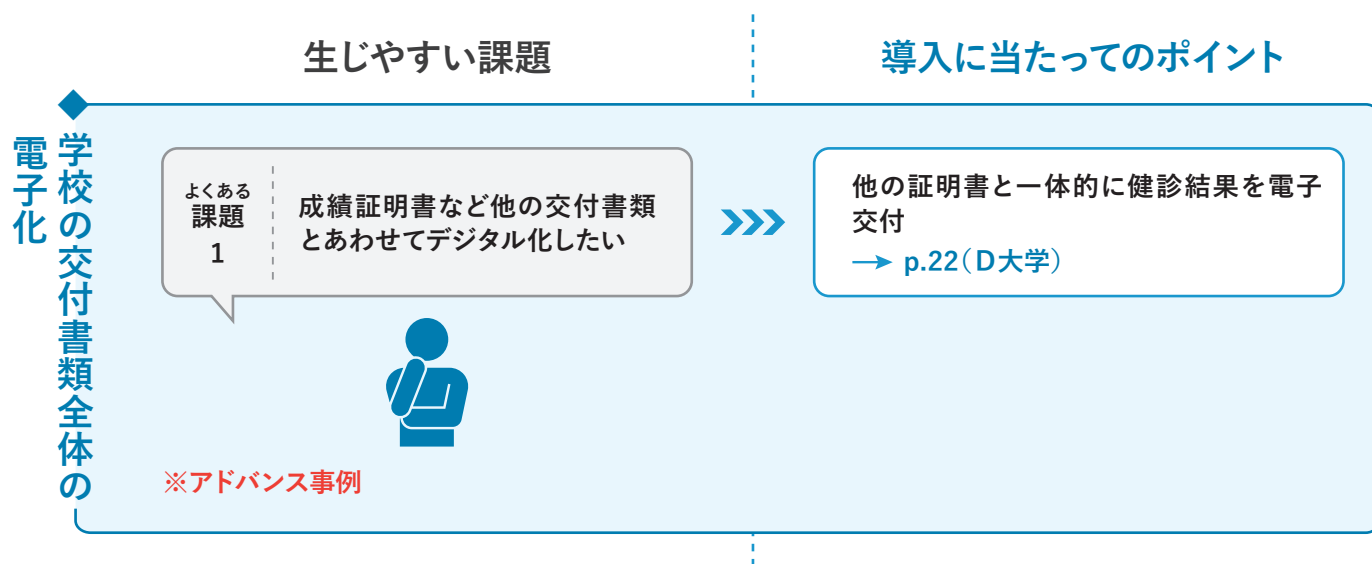
- 学校設置者が実際に直面しやすい課題と、その課題を解決するために工夫が可能なポイントをまとめました。実際の導入事例における課題と導入に当たってのポイントは、「III. 学校健診PHRの導入事例」にて詳細に掲載しています。



II. 学校健診PHRの概要

2 学校健診PHR導入に向けた課題とポイント

- 学校設置者が実際に直面しやすい課題と、その課題を解決するために工夫が可能なポイントをまとめました。実際の導入事例における課題と導入に当たってのポイントは、「III. 学校健診PHRの導入事例」にて詳細に掲載しています。



II. 学校健診PHRの概要

3 導入事例一覧

導入事例	学校設置者種別	生徒数 (学校規模)	III. における 掲載ページ
A 高等学校	学校法人	約300名 (1学年約100名)	p.11
B 幼稚園	国立大学法人	約120名 (1学年約40名)	p.15
C 小学校	市教育委員会	約300名 (1学年約50名)	p.19
D 大学 ※アドバンス事例	国立大学法人	約7,000名 (1学年約1,500名)	p.22

※アドバンス事例：成績証明書など、他の書類と一体的に健診結果を電子交付している事例

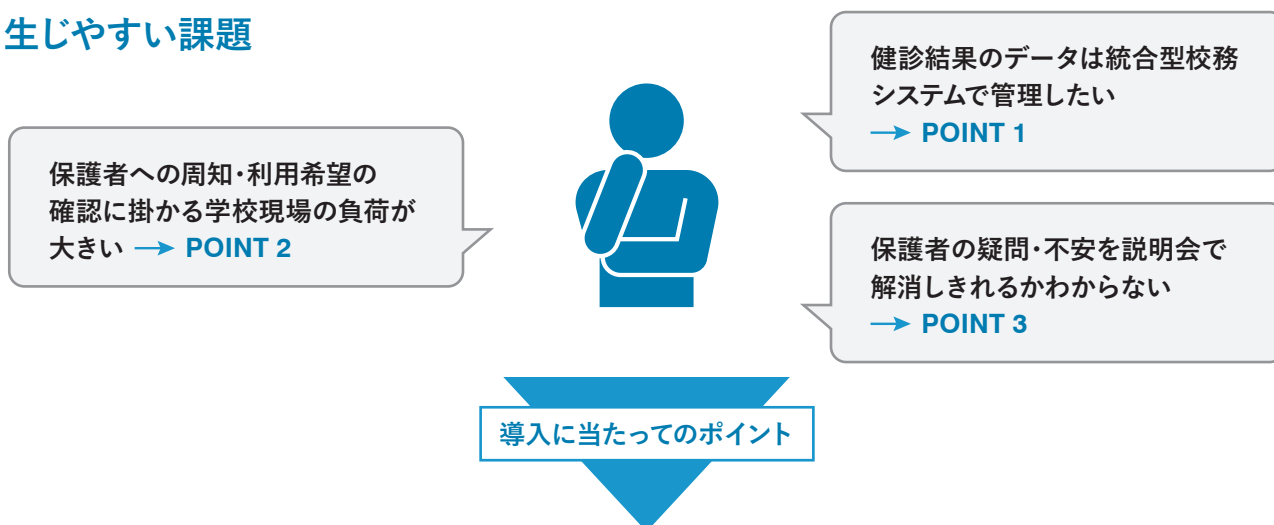
III. 学校健診PHRの導入事例

A 高等学校(私立)

◆ 導入の概要

学校設置者種別	学校法人
学校種別	高等学校
生徒数(学校規模)	約300名(1学年約100名)
統合型校務支援システムとの連携方式	API連携

◆ 生じやすい課題



POINT 1 統合型校務支援システムに民間送達サービスとのデータ連携機能を追加

データはこれまでと同様に統合型校務支援システムで管理し、民間送達サービスへデータをAPI連携できるように改修(→ p.12)

POINT 2 保護者への周知・利用希望の確認にメール・Webアンケートを活用

書面での事業周知や利用希望収集を避け、メール・Webアンケートにて実施し、学校現場の業務負担を軽減するとともに利用申し込みを手軽化(→ p.13)

POINT 3 民間送達サービス事業者も同席の上説明会を実施

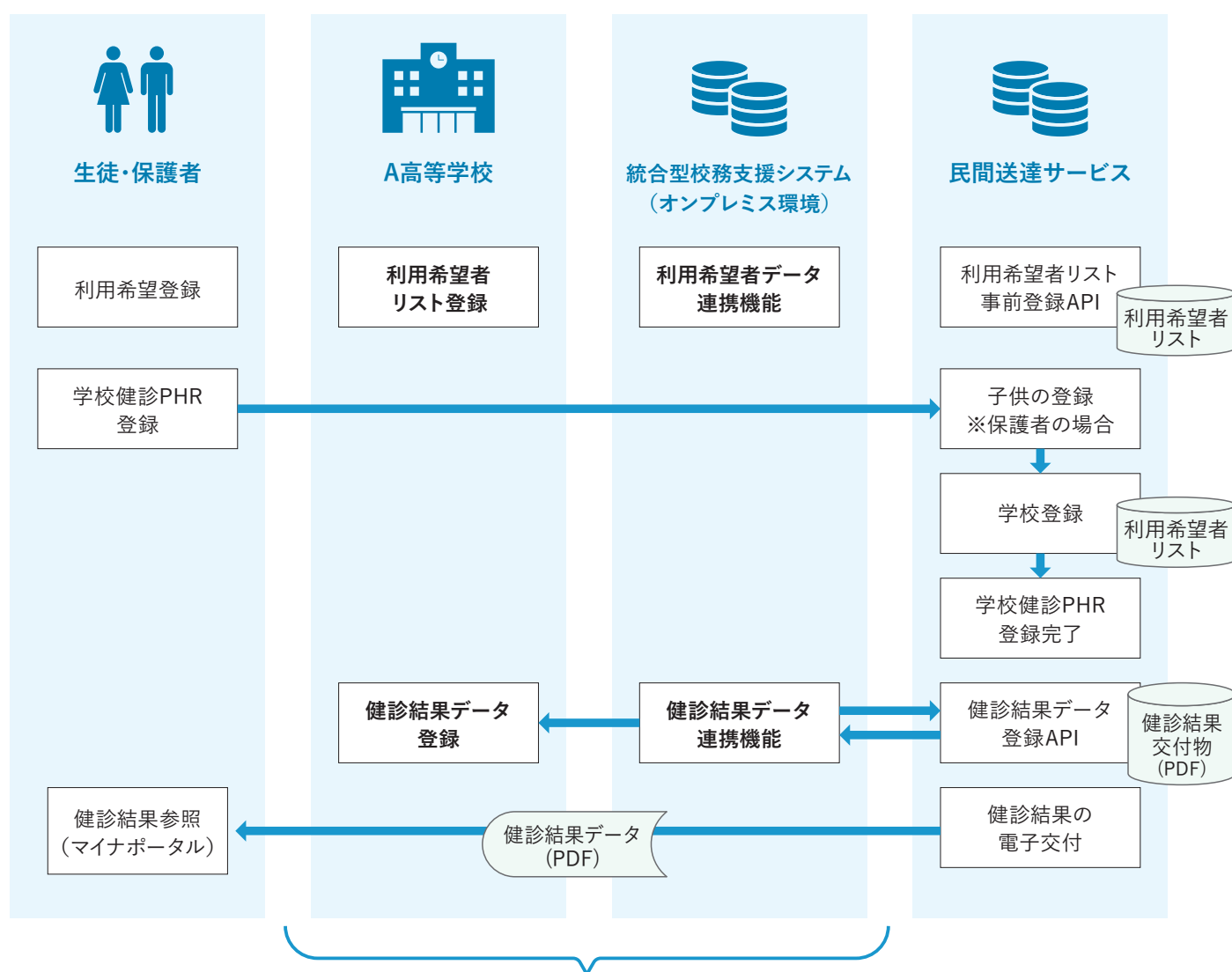
操作イメージの説明など、技術面のサポートとして民間送達サービス事業者も同席(→ p.14)

III. 学校健診PHRの導入事例

A 高等学校(私立)

POINT 1 統合型校務支援システムに民間送達サービスとのデータ連携機能を追加

- A高等学校では、オンプレミス環境の統合型校務支援システムにて、生徒の出欠や成績・保健情報等を管理していました。
- 利用希望者のリストや健診結果のデータを、統合型校務支援システムから民間送達サービスに送付できるよう改修することで、学校での操作は統合型校務支援システムで完結するようにしました。



学校現場のデータ管理操作はこれまで通り統合型校務支援システムで実施
(民間送達サービスの追加操作は不要)

RESULT

統合型校務支援システムの改修により、統合型校務支援システム側でのデータ管理操作のみで、民間送達サービスとのデータ連携・電子交付を実現しました。

III. 学校健診PHRの導入事例

A 高等学校(私立)

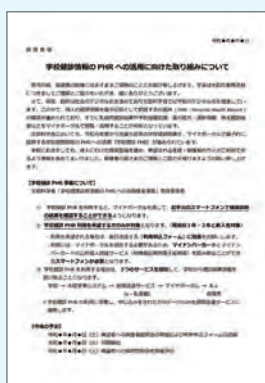
POINT 2 保護者への周知・利用希望確認にメール・Webアンケートを活用

- A高等学校では、学校と保護者との間のコミュニケーションの手段としてメール・Webアンケートを利用していました。
- 学校健診PHR導入に当たっても、保護者への事業周知や学校健診PHRの利用希望確認をメール・Webアンケートにて実施しました。

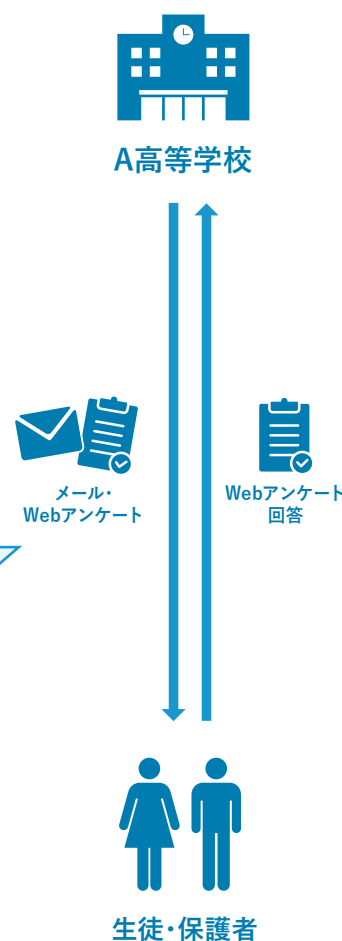
◆ 学校からの配信内容

配信内容	配信形式
説明会案内	一斉メールへの添付資料(PDF)
事業概要(文部科学省作成のチラシ)	一斉メールへの添付資料(PDF)
説明会の参加希望申し込みアンケート	WebアンケートのURLを配信
学校健診PHRの利用申し込みアンケート	WebアンケートのURLを配信

〈説明会案内資料イメージ〉



〈Webアンケート画面イメージ〉



RESULT

書面に代わり、メール・Webアンケートを活用することで、学校現場の業務負担を軽減しました。また、保護者にとっても使い慣れた連絡手段であるため、学校健診PHRの利用を申し込みやすくなりました。

III. 学校健診PHRの導入事例

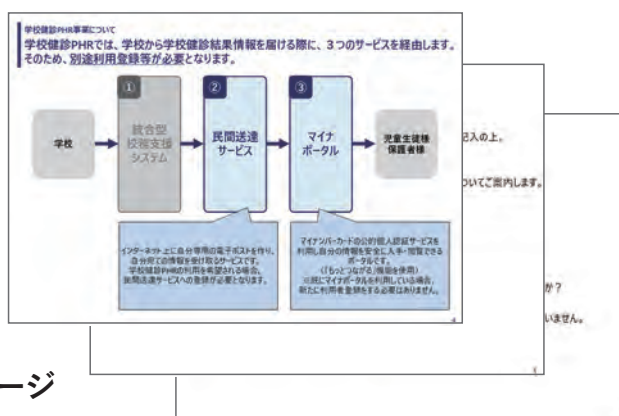
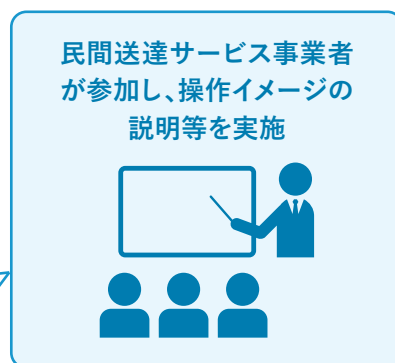
A 高等学校(私立)

POINT 3 民間送達サービス事業者も同席の上説明会を実施

- A高等学校では、学校健診PHRの概要や保護者への依頼事項を説明し、保護者の疑問点を解消する目的で説明会を開催しました。
- 説明会には民間送達サービス事業者*も参加し、マイナポータル・民間送達サービスの操作イメージの説明など、技術面のサポートを行いました。

◆ 説明会概要

会場	A高等学校
所要時間	30分
参加者	1-2年生の保護者のうち希望者
担当者	学校健診PHR事務局 民間送達サービス事業者
実施内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 学校健診PHR事業概要のご説明(5分) ② マイナポータル閲覧画面イメージご紹介(10~15分) ③ 利用開始までの流れ、利用しない場合の対応のご説明(10~15分) ④ 質疑応答(15分)



説明会資料イメージ

RESULT

説明会内で、民間送達サービス事業者が操作イメージの説明などを実施し、保護者がスムーズに学校健診PHRの利用を開始できるようにしました。

*：状況によっては、民間送達サービス事業者が同席できない場合もあります。詳細は民間送達サービス事業者に直接お問い合わせください。

III. 学校健診PHRの導入事例

B 幼稚園(国立)

◆ 導入の概要

学校設置者種別	国立大学法人
学校種別	幼稚園
生徒数(学校規模)	約120名(1学年約40名)
統合型校務支援システムとの連携方式	統合型校務支援システム未導入

◆ 生じやすい課題



POINT 1 導入にあわせて、紙での管理からエクセルでの管理に切り替え

学校健診PHRの導入にあわせ、健診結果を紙面からエクセルでの管理に切り替え、民間送達サービスとのデータ連携を実現(→ p.16)

POINT 2 全体向けの説明会に加え、操作説明会を追加実施

主にマイナポータル・民間送達サービスの登録のサポートを実施する操作説明会を追加で開催(→ p.17)

POINT 3 学年・クラスを特定せず、全学年・全クラスから利用希望者を募集

特定の学年・クラスを対象とするのではなく、全学年・全クラスを対象として利用希望者を募集(→ p.18)


III. 学校健診PHRの導入事例

B 幼稚園（国立）

POINT 1 導入にあわせて、紙での管理からエクセルでの管理に切り替え

- B幼稚園では統合型校務支援システムを導入しておらず、紙面にて健診結果を作成・保管しており、民間送達サービスとのデータ連携に対応していませんでした。
- 紙での管理からエクセルでの管理に切り替えることで、学校現場での管理コストを減らすとともに、民間送達サービスとの連携を可能にしました。

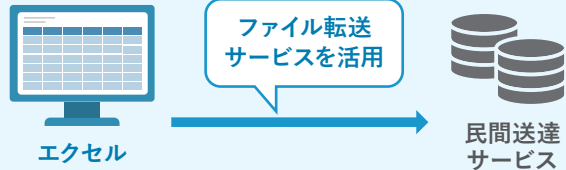
◆ 従来の管理方法



紙

- ✓ 大量の紙を学校で保管する必要があり、学校現場の管理コストが大きい
- ✓ 民間送達サービスとのデータ連携が不可

◆ 学校健診PHR導入後の管理方法



エクセル → ファイル転送サービスを活用 → 民間送達サービス

- ✓ 電子端末上でデータ保管が完結するため、学校現場の管理コストが小さい
- ✓ 民間送達サービスとのデータ連携が可能に（ファイル転送サービス経由）

RESULT

学校健診PHRの導入にあわせて、紙面での管理を廃止し、学校現場の管理コスト削減・民間送達サービスとのデータ連携を実現しました。

III. 学校健診PHRの導入事例

B 幼稚園(国立)


POINT 2 全体向けの説明会に加え、操作説明会を追加実施

- B幼稚園では、全体向けの説明会を開催してから、追加で学校健診PHRの利用を希望する保護者向けに操作説明会を実施しました。
- マイナポータル・民間送達サービスの操作方法をハンズオン形式で説明しました。


◆ 説明会概要

	全体向け説明会	+	操作説明会(全体向け説明会の後に実施)
会場	B幼稚園		B幼稚園
所要時間	30分		1時間
参加者	全保護者		利用を希望する保護者
担当者	学校健診PHR事務局 民間送達サービス事業者		学校健診PHR事務局 民間送達サービス事業者
実施内容	<ol style="list-style-type: none">① 学校健診PHR事業概要のご説明② PHR事業におけるマイナンバーカード、マイナポータルのご紹介③ マイナポータル閲覧画面(わたしのあゆみ)イメージご紹介④ 利用開始までの流れ、利用しない場合の対応等のご説明⑤ 操作説明会実施のご案内⑥ 質疑応答		<ol style="list-style-type: none">① マイナポータルの利用者登録方法ご説明② 民間送達サービスのアカウント作成・学校の登録方法ご説明③ 交付物(健診結果等)の確認方法ご説明

↓



セミナー形式



ハンズオン形式

RESULT

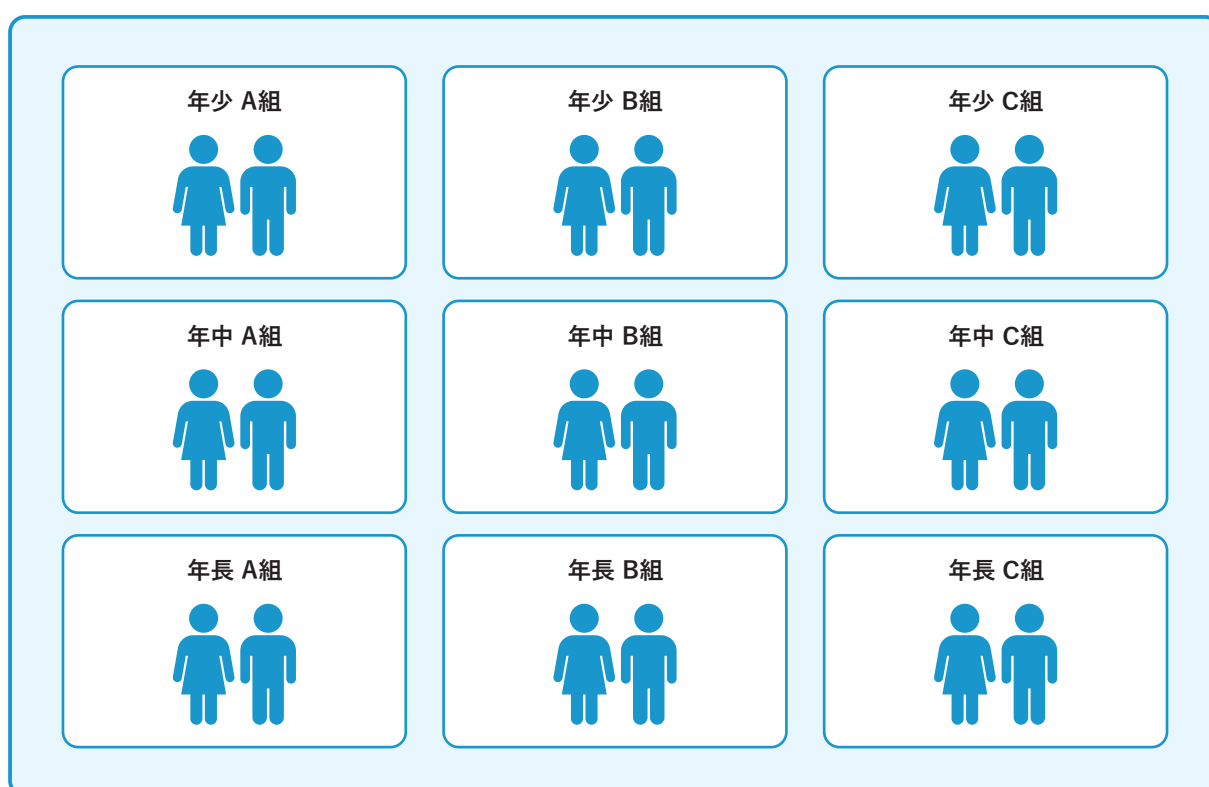
マイナポータル・民間送達サービスの登録から交付物の確認方法までハンズオン形式で説明し、保護者がスムーズに学校健診PHRの利用を開始できるようにしました。

III. 学校健診PHRの導入事例

B 幼稚園(国立)

POINT 3 学年・クラスを特定せず、全学年・全クラスから利用希望者を募集

- B幼稚園では、導入対象の学年・クラスを特定せず、全学年・全クラスから利用希望者を募集しました。
- 幅広く利用希望者を募集することで、在籍中の園児のうち多数からの申し込みがありました。



学年・クラスを特定せず、全学年・全クラスから利用希望者を募集

RESULT

全学年・全クラスから幅広く利用希望者を募集することで、より多くの園児・保護者の学校健診PHRの利用開始につながりました。

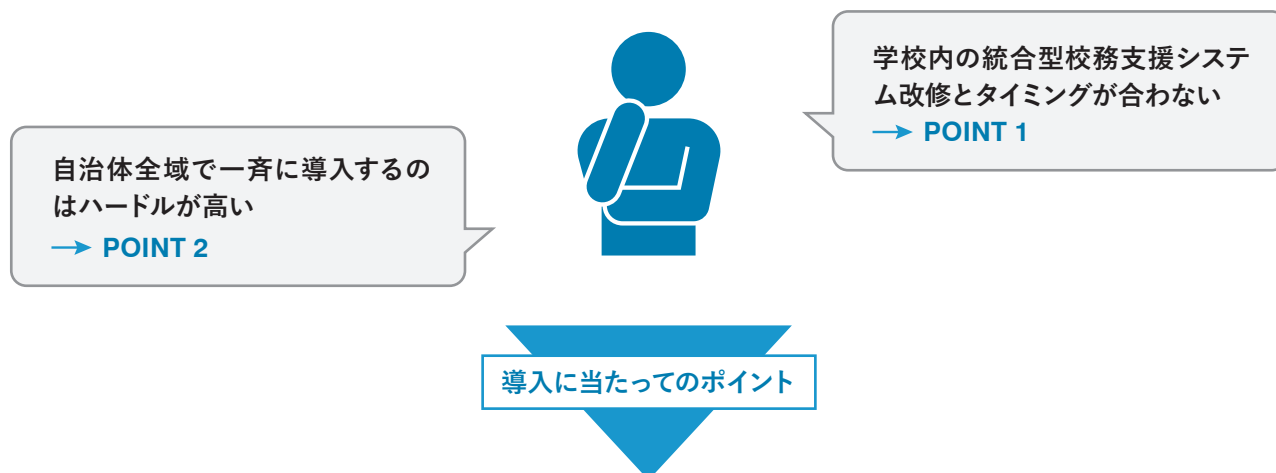
III. 学校健診PHRの導入事例

C 小学校(公立)

◆ 導入の概要

学校設置者種別	市教育委員会
学校種別	小学校
生徒数	約300名(1学年約50名)
統合型校務支援システムとの連携方式	統合型校務支援システムから出力したデータを、民間送達サービスへ直接アップロード

◆ 生じやすい課題



POINT 1 時限的な措置として、統合型校務支援システムを改修せずに手動連携で導入

ファイル転送サービスを活用し、統合型校務支援システムを改修することなく健診結果を電子交付(→ p.20)

POINT 2 モデル校を選定し、1校から試験的に導入

モデル校を選定し、自治体内全校ではなく1校から試験的に導入(→ p.21)

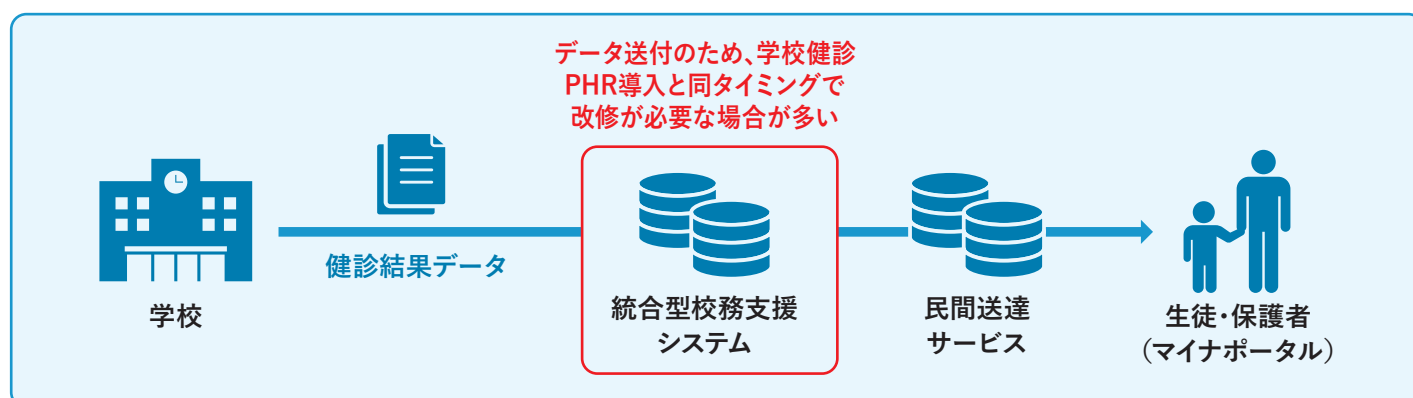
III. 学校健診PHRの導入事例

C 小学校(公立)

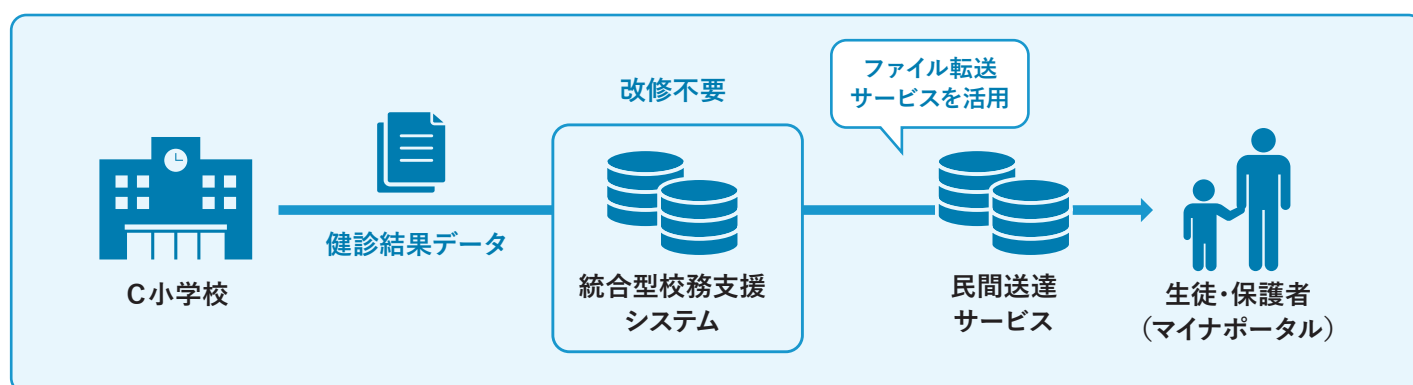
POINT 1 時限的な措置として、統合型校務支援システムを改修せずに導入

- C小学校を設置する市教育委員会では、統合型校務支援システムの改修が別途予定されており、改修のタイミングと学校健診PHR導入のタイミングを合わせる事が困難な状況にありました。
- 時限的な措置として、ファイル転送サービスを活用し、統合型校務支援システムを改修することなく生徒・保護者に健診結果データを送付する仕組みを構築しました。
- 将来的には、統合型校務支援システムから直接民間送達サービスにデータをAPI連携できるように、統合型校務支援システムの改修を予定しています。

◆ データ送付のパターン①



◆ データ送付のパターン②



RESULT

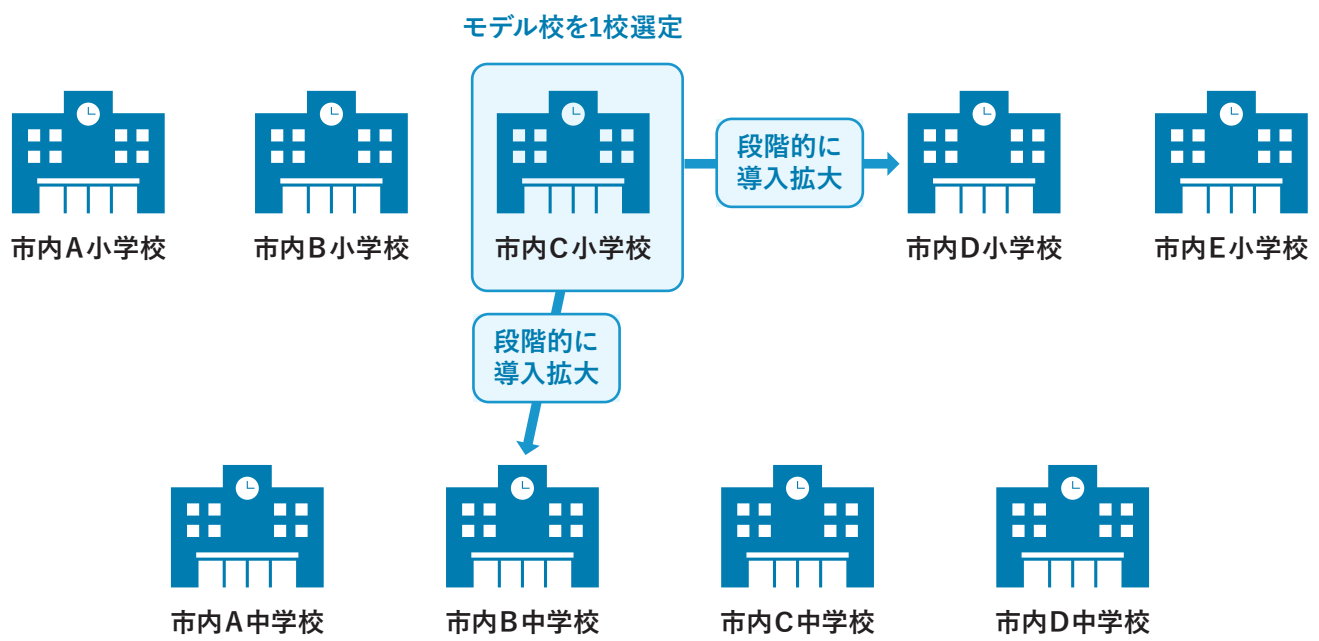
統合型校務支援システムの改修を予定しながらも、ファイル転送サービスを活用することで、改修を待たずして健診結果の電子交付を実現しました。

III. 学校健診PHRの導入事例

C 小学校(公立)

POINT 2 モデル校を選定し、1校から試験的に導入

- C小学校を設置する市教育委員会は、30校以上の公立学校を設置しており、市全域で一斉に学校健診PHR導入を進めるにはコスト面のハードルが高くなっていました。
- モデル校を1校選定し、試験的な導入からスタートしました。



RESULT 段階的な導入拡大を目指し、よりハードルの低い、モデル校1校から試験的な導入を実施しました。

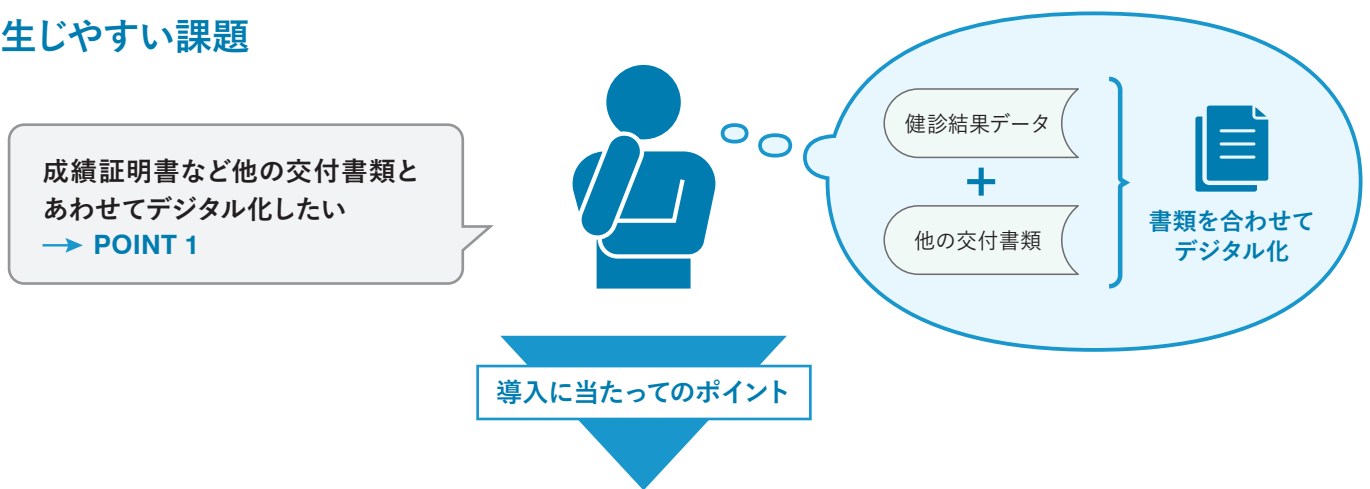
III. 学校健診PHRの導入事例

D 大学(国立) ※アドバンス事例

◆ 導入の概要

学校設置者種別	国立大学法人
学校種別	大学
生徒数	約7,000名(1学年約1,500名)
学内証明書発行システムとの連携方式	API連携

◆ 生じやすい課題



POINT 1 他の証明書と一体的に健診結果を電子交付

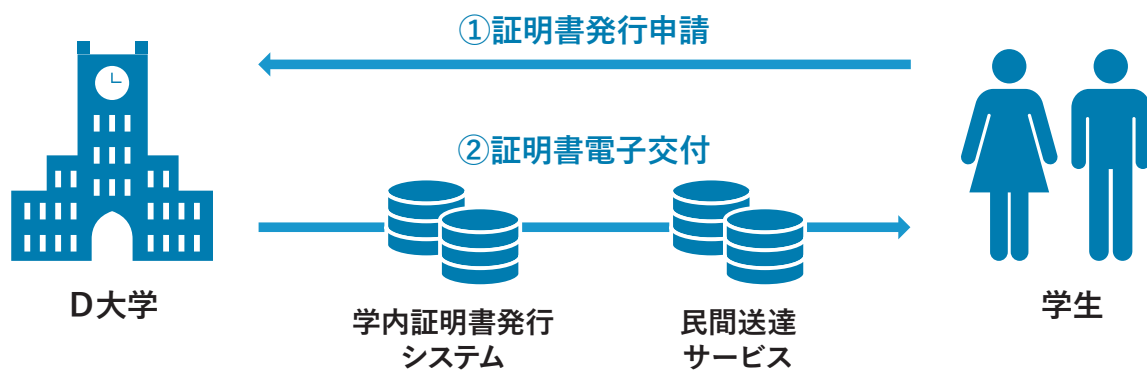
既存の証明書発行システムを改修し、他の証明書と合わせて健診結果を電子交付する仕組みを構築 (→ p.23)

III. 学校健診PHRの導入事例

D 大学(国立)

POINT 1 他の証明書と一体的に健診結果を電子交付

- D大学では、学内で証明書発行システムを導入しており、卒業見込証明書・在籍証明書・成績証明書の電子交付を行っていました。
- 証明書発行システムにて、健康診断証明書も発行できるよう改修し、他の証明書と同様の流れで民間送達サービスへデータ連携・電子交付できる仕組みを構築しました。



◆ 電子交付に対応している証明書



卒業見込証明書



在籍証明書



成績証明書



健康診断証明書

RESULT

健診結果単体での電子化ではなく、他の証明書と一体的に学生が電子交付を受けられる仕組みを構築しました。

III. 学校健診PHRの導入事例

D 大学(国立)

POINT 1 他の証明書と一体的に、健診結果を電子交付

◆ 証明書発行申請の操作イメージ(学内証明書発行システム上)

1 「証明書の発行」ボタンを押下

2 出力媒体を選択(紙/電子)

3 発行する証明書・枚数を選択

The process is shown on three mobile phone screens. Step 1: A screen titled '証明書発行受付' with a '証明書の発行' button highlighted. Step 2: A screen titled '出力媒体の選択' with '証明書付きPDF' highlighted. Step 3: A screen titled '各種証明書の請求(証明書付きPDF)' with a '決定' button highlighted.

◆ 証明書電子交付の操作イメージ(マイナポータル上)

1 マイナポータルにログイン

2 「お知らせ」から証明書交付通知を選択

3 該当の証明書を選択

4 PDFをダウンロード

The process is shown on four mobile phone screens. Step 1: My Number Portal login screen. Step 2: 'お知らせ' (Notice) screen with a notification highlighted. Step 3: '証明書一覧' (Certificate List) screen with a certificate highlighted. Step 4: '証明書一覧' screen with a 'PDFダウンロード' button highlighted.

IV. 参考資料（活用できる資料例の掲載）

- 文部科学省ウェブサイト※では、学校健診PHRの導入に際して、学校設置者等が活用できる参考資料を掲載しています。ぜひご活用ください。

参考資料1：保護者向け説明会資料（例）

参考資料2：学校健診PHRの理解促進に係るリーフレット

学校健診PHRの
各種参考情報※



※：文部科学省「学校健康診断PHRへの活用」

https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/mext_01730.html

IV. 参考資料（活用できる資料例の掲載）

参考資料 1 保護者向け説明会資料（例）

●●御中

学校健診PHR事業について

「学校健康診断情報のPHRへの活用推進事業」受託事業者
(●●●●)

20xx年x月x日

学校健診PHR事業について

学校健診PHRとは、児童生徒等の学校健診結果情報をマイナポータルを通じて電子的に提供する仕組みのことです。

※「PHR」は「Personal Health Record」の略です。



これまで、健康診断の結果は、健康ノートなどへ手書きされたり、紙面によって配布されてきました

学校健診PHRが導入されると、マイナポータルを通じて、**お手元のスマートフォンで健康診断の結果を確認**することができます

IV. 参考資料（活用できる資料例の掲載）

参考資料 1 保護者向け説明会資料（例）

学校健診PHR事業について

【ご参考】

学校健診PHRの導入が全国的に進められています。

- 政府では、社会のデジタル化の一環として、個人の健康情報等を本人が生涯にわたって電子的に管理・活用する仕組み（PHR：Personal Health Record）の構築を進めています。既に、乳幼児健診結果や予防接種記録、薬の処方・調剤情報、特定健診結果などを、マイナポータルで閲覧・活用することが可能になっています。
- この政策の一環として、文部科学省では、2019年度から、児童生徒等の学校健診結果情報をマイナポータルを通じて電子的に提供する「学校健診PHR」に取り組んできました。
- また、文部科学省では学校のデジタル化を推進しており、GIGAスクール構想や、統合型校務支援システムの導入など、教育のデジタル化や校務の効率化に取り組んでいます。

マイナンバーカードを使って
スマホで安全に閲覧できます



自身の健康情報を
生涯にわたって管理できます



2

学校健診PHR事業について

学校健診PHR利用を希望する方が対象となります。

- 学校健診PHRは、全員が対象となるわけではありません。
利用を希望される場合は、別途、利用希望申込書の提出をお願いいたします。
※利用希望申込書は後日配布予定です。提出期限等については、配布の際にご案内します。
- 利用にあたっては、マイナポータルを経由することになりますので、マイナンバーカード、及び、マイナンバーカードの公的個人認証サービス（利用者証明用電子証明書）を読み取ることができるスマートフォンが必要となります。
- 学校健診PHRを利用しない場合、健診結果が勝手に連携されることはありませんので、ご安心ください。

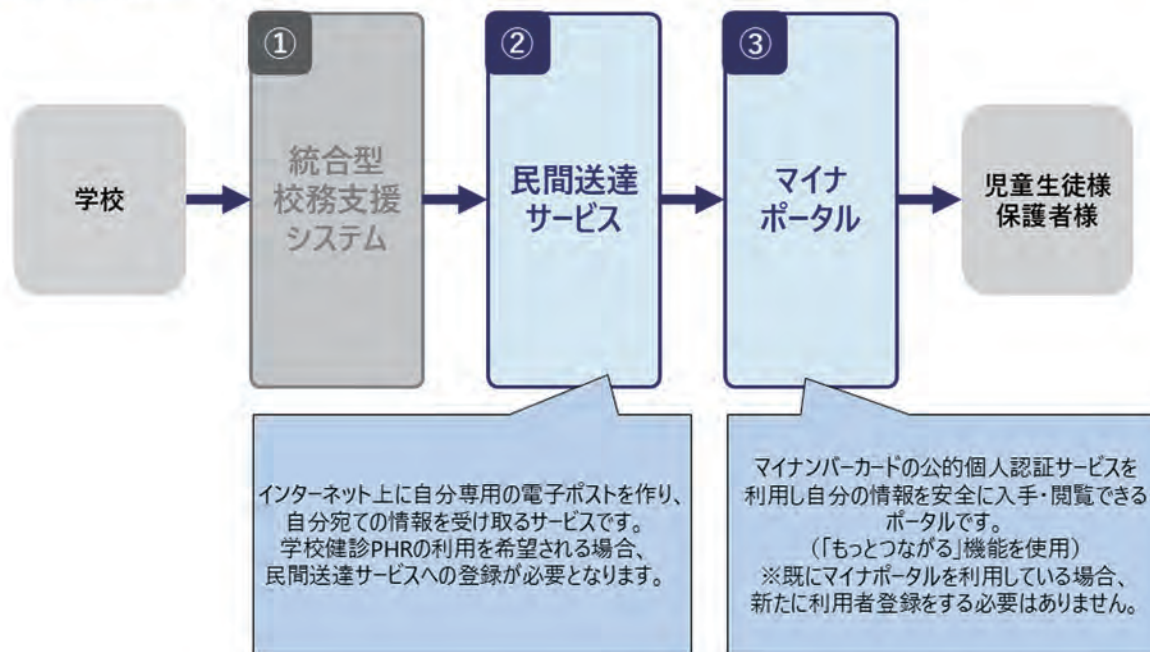
3

IV. 参考資料（活用できる資料例の掲載）

参考資料 1 保護者向け説明会資料（例）

学校健診PHR事業について

学校健診PHRでは、学校から学校健診結果情報を届ける際に、3つのサービスを経由します。そのため、別途利用登録等が必要となります。



4

学校健診PHR事業について

今後については、順次ご案内いたします。

- 学校健診PHRの利用を希望される場合は、後日配布予定の利用希望申込書をご記入の上、配布時にご案内する期限までにご提出をお願いいたします。
- 上記で申し込まれた場合、別途、「マイナポータル」と民間送達サービスの利用登録についてご案内します。
※既に「マイナポータル」や民間送達サービスを利用したことがある場合は、新たに利用登録をする必要はありません。

5

IV. 参考資料（活用できる資料例の掲載）

参考資料 1 保護者向け説明会資料（例）

学校健診PHR事業について

よくあるご質問

- マイナンバーカードの写しやマイナンバーを学校に提出することになるのでしょうか？
→ マイナンバーカードはご自身でマイナポータルを利用する際にのみ使用します。
マイナンバーカードの写しやマイナンバーを学校に提出することはありません。
- 他の生徒に自分の健康診断結果を見られることはないのでしょうか？
→ 個人のマイナポータルを経由して健診結果を確認するので、
他の生徒の結果は見られません。
- 国が健康診断情報を一元的に収集し、二次利用されることにつながらないのでしょうか？
→ 各個人（保護者・児童生徒等）に直接情報が配信されるものであり、
民間送達サービス事業者や国が健康診断結果情報を収集する仕組みとはなっていません。

6

ご清聴ありがとうございました

7

IV. 参考資料(活用できる資料例の掲載)

参考資料 2 学校健診PHRの理解促進に係るリーフレット

見返しやすい健診結果で 家族の健康がもっと身近に

**思ったよりも
身長が伸びていたよ**

むし歯ないかな…

**昨年と比べて
視力はどうかな**

成長も健康も“見える化”する時代へ。学校健診PHRで新しい自分管理。

子供の健康を身近に感じられる安心

日々の生活の中で、子供の小さな変化に気付くのは意外と難しいものです。学校健診の結果を確認することで、成長に気付いたり、体調の変化の予兆が見えたりします。スマホで学校健診の結果を手軽に見ることができるようになれば、子供の健康もより身近に、確かに見守れます。

医療機関とのコミュニケーションのために

子供が急に医療機関を受診した際に、身長や体重をきかれることがあります。学校健診の結果の掲載が手元になくても、スマホで学校健診結果を参照できれば、スムーズにコミュニケーションをとることができます。

**紙の健診結果が
手元になくても大丈夫**
探す手間や紛失の心配がなくなります。

**病院での問診票記入が
スムーズに**
お子さまの健康情報をすぐに参照でき、正確に入力できます。

**マイナンバーカードで
安全に管理**
本人確認がしっかり行われ、安全で、ご登録のみアクセスできます。

学校健診PHRとは?

現在、国が推進する「パーソナルヘルスレコード(PHR)」は、健康や医療に関する情報を自分自身で管理できる仕組みです。学校の健康診断でも、学校健診PHRの導入が検討されており、児童生徒等の健診結果を保護者が自身のスマートフォンなどから安全に確認できるようになります。紙の結果を保管・持ち歩く手間がなくなり、必要なときにすぐ確認できるなど、日常生活での利便性も向上します。

どうやって使う?

学校に利用の意思表示をします
申し込みの案内に沿って手続き
※学校健診PHRを導入している学校のみで利用可能

マイナンバーと民間送達サービスに登録
マイナンバーカードを使ってオンライン登録

スマートフォンで健診結果を確認
学校に登録した健康診断の結果が、マイナンバー上で確認できるようになります。

よくあるご質問

Q. 学校に対してマイナンバーカードの写しや11桁のマイナンバーを提出しなければいけないのでしょうか?
A. マイナンバーカードはご自身でマイナンバーを利用する際のみ使用します。マイナンバーカードの写しやマイナンバーを学校に提出することはありません。

Q. 自分の健康診断結果を他の児童生徒等に見られることはないのでしょうか?
A. 個人のマイナンバーを基盤として健診結果を確認するので、他の児童生徒等に自分の健康診断結果を見られることはありません。

Q. 国が健康診断情報を一元的に収集し、二次利用されることにつながるのでしょうか?
A. 個人(保護者・児童生徒等)に直接情報が提供されるものであり、民間送達サービス事業者や国が健康診断結果情報を収集する仕組みとはなっていません。

文部科学省
学校健康診断PHRへの活用